

感染症週報〔市内週報 平成23年第34週〕

結核・感染症発生動向調査

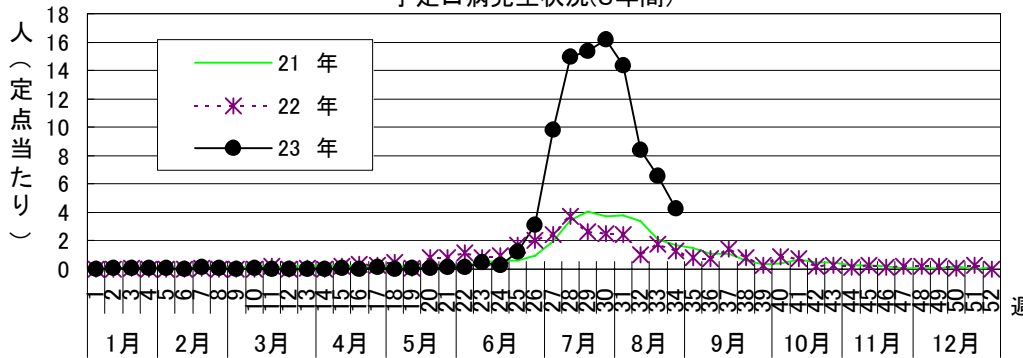
平成23年8月30日

平成23年第34週感染症発生状況【川崎市内】

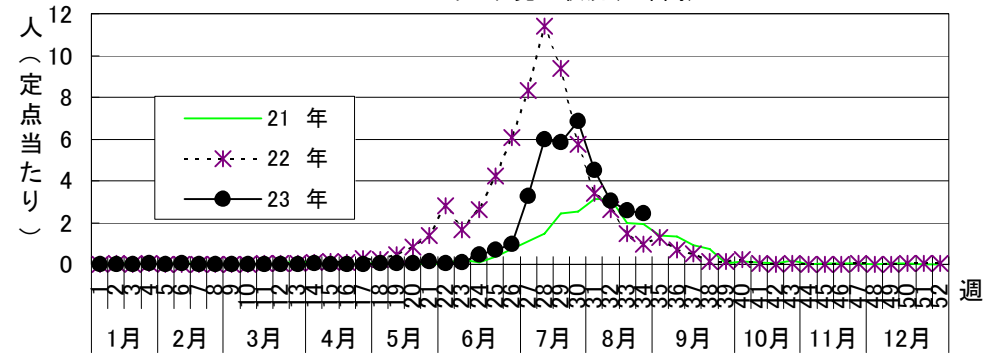
平成23年8月22日～平成23年8月28日

5類感染症(定点把握疾患)等	全数把握疾患	届出	累計(平成23年第1週以降)
<p>第34週で定点報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。</p> <p>手足口病は定点当たり4.28人と、患者報告数は4週連続で減少しています。ただし、依然として警報基準値(定点当たり5人)に近いレベルで推移しているため、今後も発生動向に注意が必要です。</p> <p>ヘルパンギーナも定点当たり2.44人と患者報告数の減少傾向が続いていますが、手足口病及びヘルパンギーナについては、過去10年間の同時期の報告数と比較すると、今年が最も多い報告数となっているため、引き続き手洗いなどの予防策の徹底が大切です。</p>	1類感染症	なし	なし
	2類感染症	結核 8件	結核 295件
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3件	細菌性赤痢 1件 腸管出血性大腸菌感染症 17件
	4類感染症	なし	レジオネラ症 6件 E型肝炎 1件
	5類感染症	なし	アメーバ赤痢 4件 ウイルス性肝炎 3件 急性脳炎 2件 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4件 後天性免疫不全症候群 9件 梅毒 7件 風しん 10件、麻しん 9件

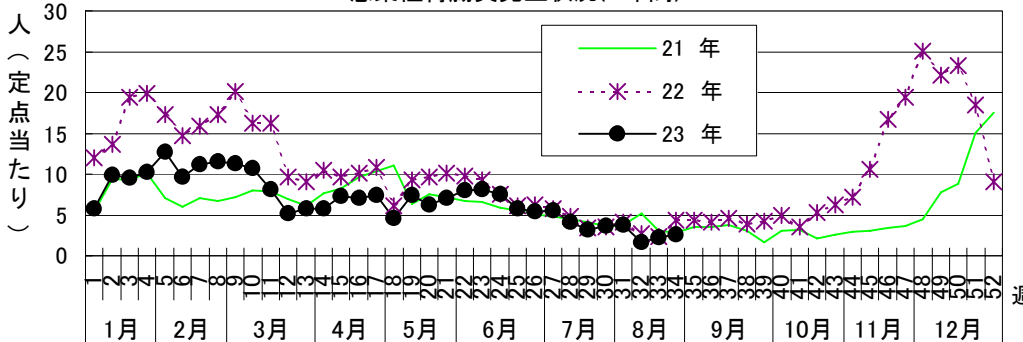
手足口病発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



川崎市における腸管出血性大腸菌感染症届出件数

